タクティカル・トランジット：タクティカルなアプローチから地域コミュニティと共に創る公共交通改善の挑戦 ～アフリカの取り組みから～

津村優磨（東京科学大学 博士後期課程／株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル）
斎藤春佳（株式会社アンジェロセック）
川口裕久（株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル）
入野啓太（独立行政法人国際協力機構）
花岡伸也（東京科学大学）

1. 背景と目的

- 近年、短期的・低コストのアクションを通じて都市空間に持続的な変化をもたらすまちづくりの手法として、**タクティカル・アーバニズム（Tactical Urbanism）が国内外において注目**を集めている。
- その思想的背景には、Lefebvre（1968）が提起した**「都市への権利（Right to the City）」**の概念があり、**市民が都市空間のあり方に主体的に関与し、公共空間を自らのものとして再構築する実践**と位置づけられる。
- 近年は北米を中心に、このアプローチを**公共交通改善へ応用した「タクティカル・トランジット（Tactical Transit）」**への関心も高まりつつある。
- 本稿では、**JICAの「キンシャサ市都市交通マスタープラン（PDTK）実施促進プロジェクト」**の一環として実施された、**タクティカル・トランジットの事例を対象に、概要と参加者の社会的・心理的効果を中心に成果と意義**を整理する。

2. 対象都市

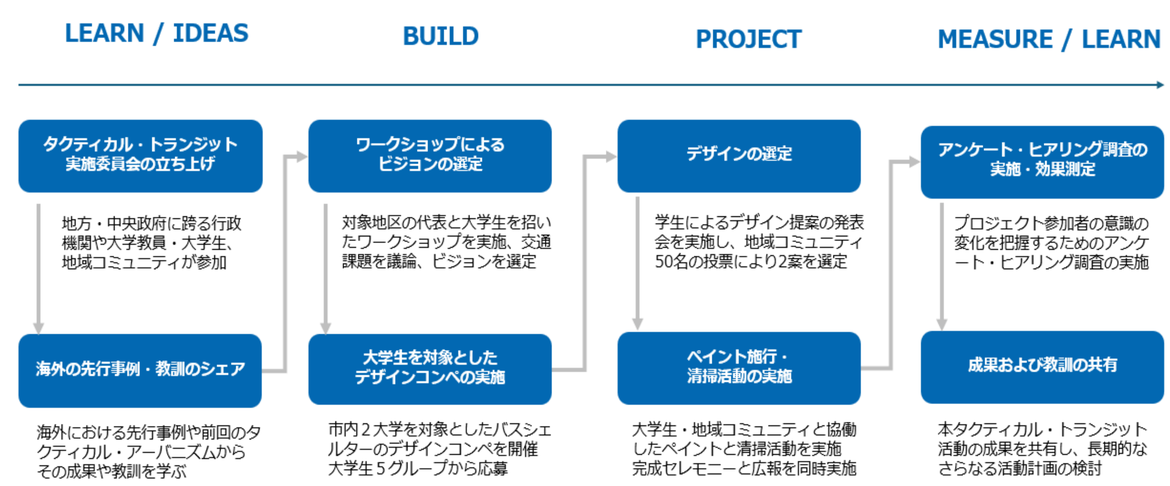
- 対象都市は**コンゴ民主共和国キンシャサ市**であり、本取組はJICAの技術協力プロジェクトの一環として実施した。
- **同国の首都であり、人口13百万人（2017）**を擁するサブサハラ・アフリカ有数の大都市圏である。
- 2023-2024年に、市内中心部に立地する大学前の横断歩道を対象として、**同国初のタクティカル・アーバニズムにかかるパイロットプロジェクト**を実施済。

- その後、郊外部（ルムンバ大通り・デボンノム地区）に位置する**バスシェルター**を対象として「タクティカル・トランジット」のパイロットプロジェクトを実施。

3. プロジェクトの概要

- デボンノム地区は、空港と市中心部を結ぶ主要幹線上に位置し、**市内有数の公共交通の乗換拠点でありながら、停留所等の環境整備が遅れている。**
- **道路利用者の交通ルールの普及が十分に進んでおらず**、無秩序な駐停車が常態化しており、公共交通の運行上のボトルネックとなっている。
- このため、**公共交通利用の環境改善とともに、交通安全や利用マナーに関する啓発活動を並行して行う**ことが不可欠とされた。
- こうした課題に対処するために、キンシャサ州政府やインフラ公共事業省を中心に、**未来のまちづくりを担う都市計画・建築専攻等の大学生や地域コミュニティを巻き込み、タクティカル・トランジットのパイロットプロジェクトを実施**した。
- 具体的には、タクティカル・アーバニズムの基本要素である**「Build（構築）」「Measure（計測）」「Learn（学習）」の循環**を取り入れ、行政機関のカウンターパートのリードの下、**大学生や地域コミュニティが協働してビジョンを選定し、バスシェルターのデザインと施工**までのプロセスを一貫して実施した。

タクティカル・トランジットの実施プロセス



4. 主な成果

- カウンターパートである行政機関、大学の教員と学生、運転手協会、NGO等の地域コミュニティの共創を推進する**「タクティカル・トランジット実施委員会」が設立**された。
- **選定されたビジョン**（Gardez Bande Nayo Telema Esika Ebongi: 自分のレーンを守り、止まるべき場所で止まろう）に基づき、**大学生５グループから交通安全に対する啓発メッセージを込めたバスシェルターの壁面デザインへの応募**があった。
- 大学生と地域コミュニティと連携しながら、同地区に設置された**２基のバスシェルターを対象に、選定されたデザイン塗装と清掃活動**を合わせて実施した。

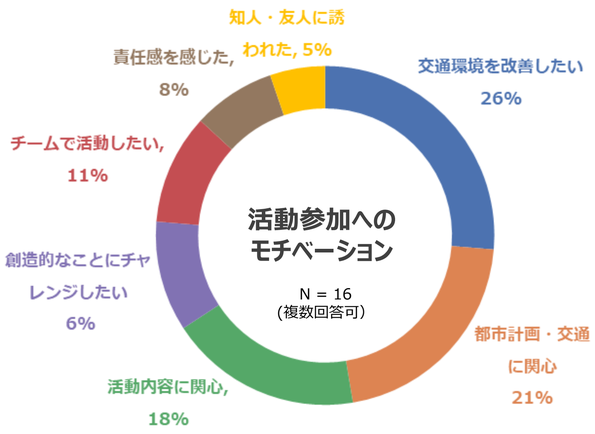
ビジョン・ワークショップで
議論する大学生グループ

デザイン・コンペにおいてコンセプトを
発表する大学生グループ

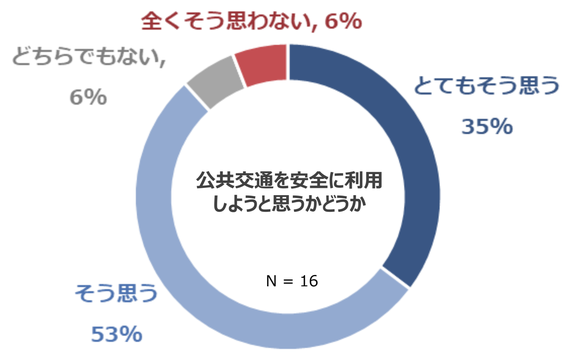
バスシェルターにデザインを施す参加者

完成後のバスシェルター

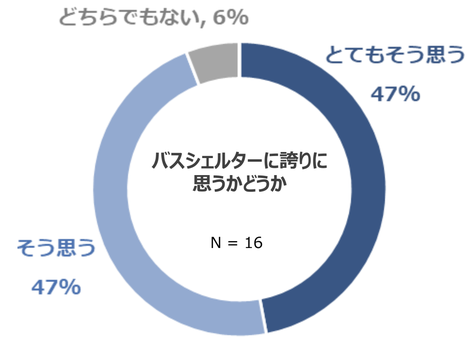
参加者の活動参加へのモチベーション



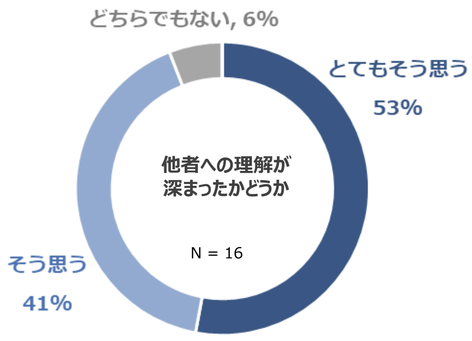
社会的効果：無秩序な乗降を抑制し交通安全に対する意識改善に貢献



心理的変容：バスシェルターへの誇りや主体性、今後の活動参画への意欲を実感



コミュニティ形成：他参加者との心理的距離が縮まり、共感の深まりを示唆



- さらに一連の活動に関わった行政機関や地域コミュニティの意識にも変化が生まれ、オーナーシップの向上とともに、多くの関連プロジェクトの提案につながった。

5. 今後の展開に向けて

- 本稿では、タクティカル・アーバニズム／トランジットにおける、**物理的なインフラの改善にとどまらず、社会的効果、心理的変容、コミュニティ形成といった多様なナラティブを同時に生み出すことが期待される多層的アプローチとしての意義**を示した。
- 今後、同市内や同国の他都市、周辺国への波及のみならず、**アジアや日本の都市における展開も期待され**、人々の行動変容を促す**モビリティ・マネジメントとの親和性も高く、両者を組み合わせることで持続的なモビリティ改善に資する可能性**がある。
- 日本の取り組みでは行政を巻き込んだ共創型が多く見られるが、**市民がより主体的に「都市への権利」を行使するナラティブをいかにデザインするのかが鍵**となる。

YouTube動画（日本語字幕付き）も合わせてご覧ください

Phase 1:
タクティカル・アーバニズム
（横断歩道のリ・デザイン）

Phase 2:
タクティカル・トランジット
（バスシェルターのデザイン）

本稿は、国際協力機構（JICA）の支援により実施された「コンゴ民主共和国キンシャサ市都市交通マスタープラン実施促進プロジェクト（PRCM-PDTK）」での成果を踏まえたものである。ここに記して当該プロジェクト関係者への謝意を表する。